TÜRKRAD 2025 参加報告

浜松医科大学放射線診断学
尾崎公美

今回、2025 年 12 月 16－20 日、トルコのアンタルヤで開催された TÜRKRAD 2025 に参加させていただき、トルコの放射線医学界の活気と国際交流の重要性を改めて実感することができました。

アンタルヤはヨーロッパの避暑地として知られる場所であり、温暖な気候とゆったりとした雰囲気に包まれた美しい都市でした。学会期間中も天候に恵まれ、快適な環境の中で学術活動に集中することができました。ホテルと一体化したコンベンションセンターという会場の特性も相まって、リラックスしながらも充実した時間を過ごすことができました。

学会の規模としては日本医学放射線学会と比較すると小さいものの、会場には若い世代の参加者が多く見られ、トルコにおける放射線医学の将来性と発展への期待を強く感じました。並列で 6 つのプログラムが進行し、内容も充実していましたが、多くのセッションがスライドも含めてトルコ語で行われていたため、国際参加者としては若干の言語の壁を感じる面もありました。しかしながら、国際セッションでは英語での活発な議論が交わされ、十分に有意義な学術交流を行うことができました。

私は “FUTURE OF RADIOLOGY”というシンポジウムで、Beyond Proton Imaging: Clinical Applications of ^{31}P-MRS and ^{23}Na-MRI in Hepatology and Oncology と題して^{31}P-MRS と^{23}Na-MRI の肝臓学および腫瘍学における臨床応用について講演しました。会場に多くのトルコの先生方が参加してくださり、熱心に聴講していただきました。質疑応答では、過去に類似の講演をさせていただいた際と同様に、検査時間が必要となる点が、やはり大きな関心事項となっているようでした。我々が臨床現場で抱える問題は世界共通の課題であることを再認識できました。

同じセッションで講演された Sung Il Hwang 先生とは、過去にも複数の学会でお会いしており、今回も胸部 X 線における AI の有用性について興味深いご発表をされました。セッションの前後には、韓国と日本の放射線科学会の状況や若手世代の育成について意見交換する機会もあり、アジア地域における放射線医学の発展について考えを深めることができました。

また、前日に開催された International Guests Welcome Dinner では、少人数でアットホームな雰囲気の中、トルコの先生方と親睦を深めることができました。このような温かいおもてなしを通じて、国際的な人的ネットワークの構築と学術交流の重要性を改めて実感いたしました。

今回の TÜRKRAD 2025 への参加は、トルコの放射線医学界の現状を知る貴重な機会となっただけでなく、国際学会における自身の研究の位置づけを改めて認識し、今後の日本の放射線医学の発展や研究の方向性を検討する上でも極めて有意義な経験となりました。

このような貴重な機会をご提供いただいた日本医学放射線学会の皆様に、心より感謝申し上げます。

年間を通じて世界中の学会から多様な領域の日本人放射線科医を対象とした国際交流事業が実施されています。特に若い放射線科医の皆様にはこのような機会への積極的な参加を強くお勧めしたいと考えています。こうした思いを新たにしながら、アンタルヤを後にして帰路につきました。

2025 年 12 月 21 日

講演前日の International Guests Welcome Dinner で最後に

講演中の筆者